

# 北海道白老町 いぶり海岸の人工リーフにおける藻場づくりと漁業振興

白老水産海洋協議会（いぶり中央漁業協同組合・公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社・白老町環境町民会議・白老町）

## 1 いぶり海岸の概要

北海道苫小牧市～白老町に位置する胆振海岸では、国土交通省北海道開発局により、越波を低減し海浜の安定化を図る人工リーフの造成工事が進められています。



人工リーフは水産協調型の構造が採用され、ミツイシコンブ等の海藻類の着生のほか、ウニ類・マナマコ等の生息場所となるなど多様性に富んだ生態系が確認されています。



## 2 プロジェクトの概要

キタムラサキウニを間引いて磯焼けを防止しているよ! >>



- 下記の取組の継続により、人工リーフにおける持続的な藻場の保全活動と漁業振興の両立を進めています。また、海に関する環境教育や海岸清掃などの啓発活動を通して、海的环境保全を進めています。

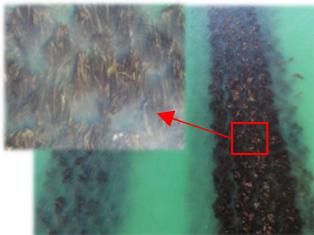
- いぶり中央漁業協同組合 → 人工リーフにおけるウニの漁獲（間引き採取）、水産資源のモニタリングや資源管理
- 北海道栽培漁業振興公社 → ウニ間引き、藻場保全に関する助言や取組協力、ドローン調査、環境教育への協力
- 白老町環境町民会議 → 環境教育（しらおい夏の海塾）や海岸の清掃活動（ヨコスト海岸クリーンアップ）
- 白老町 → これらと連携した各種活動支援、ゼロカーボンシティへの挑戦を表明(R5.6)

## 3 プロジェクトの特徴・PR

藻場を育ててエゾバフンウニの実入りを良くしているよ! >>



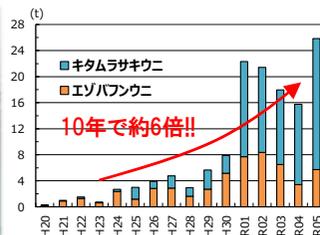
- ウニ類の漁獲は、磯焼け防止＝海藻類の保全に繋がり、当海域のCO2吸収量の維持・増加に寄与します。
- 認証藻場面積 **5.35ha** → 東京ドーム約1個分、民族共生象徴空間(ウポポイ)の約半分の面積に相当
- 認証CO<sub>2</sub>吸収量 **14.4t-CO<sub>2</sub>** → 36～40年生のスギの木 約1,636本が1年間に吸収する量に相当
- さらに、漁獲したウニ類を販売することにより、地域収益の拡大にも貢献しています。
- R6.3より「白老水産海洋協議会」を設立し、持続的な藻場づくりと漁業振興の更なる発展を目指しています。



人工リーフに繁茂する海藻類の状況



人工リーフ周辺におけるウニ漁の様子



人工リーフにおけるウニ類の漁獲量の推移



白老産のウニ



環境教育活動(夏の海塾)



海岸清掃活動